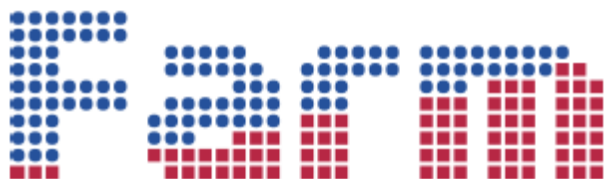




Агробизнес форум Япония – Дальний Восток России 2019

日本・ロシア極東農業ビジネスフォーラム2019 の開催について





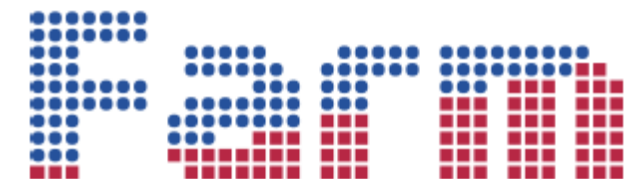
日本・ロシア極東農業ビジネスフォーラム

ロシア極東と日本での農業に関わる共同経済活動の可能性や人材育成等にかかわる情報交換を目的として、沿海地方農業アカデミーの提案で開始された。

第2回 2017年6月 日露の連携（沿海地方農業アカデミー, ウスリースク市）

第3回 2018年3月 施設園芸・先進技術（千葉大学, 柏市）

第4回 2019年5月 有機農業（沿海地方農業アカデミー, ウスリースク市）



CHIBA
UNIVERSITY

平成29年度採択 大学の世界展開力強化事業（タイプA（ロシア）） 千葉大学「極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム」

Future Agriculture with Far East Russia Pre-Master to PhD Program

FARM

未来農業
ビジネスプロフェッショナル
育成プログラム

▶ 2つの未来農業トレーニング 人工光型=A-Training 太陽光利用型=S-Training



人工光型
6W



太陽光型
6W×2

播種 育苗 移植 収穫
人工光型植物工場研修=5週間から育成が可能=6Wプログラム

播種 育苗 移植 収穫
太陽光利用型植物工場研修=12週間から育成が可能=6W×2プログラム
並行して研究展開

▶ プロが「未来農業ビジネスプロフェッショナル」を育成するプログラム



極東ロシアにおいて食料生産から流通・販売ビジネスまで含めた未来農業（高度施設園芸等）を理解でき、
日露の共同事業に貢献できる人材育成を目的とする。
栽培や環境に関わる領域だけではなく、工学やマーケティングに関するプログラムを学び、極東地域における
日露共同事業の柱の一つとされている、温室ビジネスで活躍できる人材を育成する。

第4回 日本ロシア極東農業ビジネスフォーラム

テーマ：有機農業

主催：沿海地方農業アカデミー

共催：千葉大学、沿海地方政府、ウスリースク市

日時：2019年5月24日（金）9：30～14：30

場所：沿海地方農業アカデミー本部講堂

参加人数：約150名（ロシア関連企業等）

日本からの参加：

林総合研究所、農藝社(秋田県)、双日、東京大学、千葉大学
駐ウラジオストク領事館、ウラジオストク日本センター

オープニングセッション 9:30~10:30

- 1) 沿海地方農業アカデミー アンドレイ・コミン 学長
- 2) 沿海地方ウスリースク市 Rud Nikolai 市長
- 3) 沿海地方州農業食糧局 Kalinovskii Vladimir 副局長
- 4) 在ウラジオストク総領事館 中村耕一郎 総領事
- 5) 沿海地方ウラジオストク市 副市長
- 6) 千葉大学 渡邊誠理事 (代理：高垣副理事)
- 7) 極東有機農業研究センター Emelyanov Aleksei 局長

オープニングセッション 9:30~10:30



オープニングセッションの様子

議論の要点

メインテーマである有機農業との関連で、6次産業化の重要性が指摘される。

“山の中の資源”にも注目し、地域の資源の有効活用の方策が述べられた。

沿海地方の特徴、“降雨の大半が7-8月に集中、年間降水量は500 mm程度”が指摘され、環境に適した品種改良の重要性を指摘。バビロフの言葉として、「遺伝子は環境に優先する」が惹句として引用された。

沿海地方農業アカデミー
アンドレイ・コミン学長によるスピーチと列席者

第一部 10:30-12:15 モデレータ アンドレイ・コミン 学長

- 1) 沿海地方農業アカデミー 学長 アンドレイ・コミン
「ウスリースク市管区の農業複合体への投資」
- 2) 極東有機農業研究センター 局長 Emelyanov Aleksei
「有機農業に適した作物系統の選抜」
- 3) 千葉大学園芸学研究科 講師 矢野祐樹
「日本における有機農業生産品の認証」
- 4) 企業組合 農藝舎 代表 佐々木 三知夫（秋田県）
「酵母と米ぬかを利用した有機農業」
- 5) 極東農業大学 総合農業園芸学科 教授 Shchegorets Olga
「ロシア及び極東ロシアにおける有機農業の取り組みと展望」
- 6) Rosselhoztesntr 代表 Buhanistaya Galina
「ロシアにおける有機農業に関わる法的制度」

第一部 10:30-12:15



学長アンドレイ・コミンによる講演



Emelyanov Aleksei
局長による講演



矢野講師による講演



佐々木氏による講演



Shchegorets Olga
Viktorovna教授による講演



Buhanistaya Galina Frdorovna代表による講演



第一部後のコーヒースタンド時の交流

【議論の要点】

有機農業の実践例が日露双方の講演者から紹介された。

ロシアにおける有機農法による生産物の認証制度について、法整備が進められている状況が報告された。2020年10月が認証制度が開始される見込み。認証制度に向けて、農業生産者の準備状況などが話題となった。

第二部 Section 1 13:00-14:30

有機農産物の生産における農業技術

- 1) ロシア沿海地方育種センター 果樹・小果樹部門長 シャギアクメトフ・アナトリ
「沿海地方における果樹・小果樹の有機栽培」
- 2) Vlad Mila 研究部長 Kurbatov Vladimir
「家禽飼養と安全な食糧生産」
- 3) 沿海地方EMセンター スペシャリスト Glotov Aleksander
「有用菌の活用による有機農業」
- 4) 極東農業大学 教授 Shchegorets Olga
極東 BASF 地域代表 Khairulin Roman
「ジャガイモ生産における生物的技術」
- 5) 極東国立農業大学 科学研究部局長 ムラトフ・アレクセイ
「春ライ小麦 有機農業の新たな作物」
- 6) 沿海地方農業アカデミー 農業生態学科長 Vorobieva Valentine
「人間生態学の発展に対する有機農業の貢献」

第二部 Section 2 13:00-14:00

有機農業による土壌肥沃度の維持

- 1) 沿海地方農業アカデミー 副学長 Inshakov Sergei
「沿海地方における土壌肥沃度とダイズ生産性に緑肥作物が及ぼす影響」
- 2) 千葉大学園芸学研究科 教授 犬伏和之
「有機農業と土壌管理」
- 3) プリマアグロ輸出協会 会長 Dudnik Sergei
「沿海地方における有機農業の実践的導入」



プリマアグロ輸出協会会長Dudnik Sergei
によるプレゼンテーション



副学長 Inshakov Sergeiに
よるオープニングトーク



犬伏教授によるプレゼンテーション

【議論の要点】

ロシアにおける緑肥による地力回復に関する研究例が紹介された。
アンケート調査による日本の有機農業の現状に関心が寄せられていた。
日露の合弁会社によるニンジン、メロン、カボチャ、ダイコンなどの生産加工・輸出事例が紹介された。

第二部 Section 3 13:00-14:45

極東ロシアにおける森林の構成と機能

- 1) ロシア科学アカデミー Bryanin Semen
「石炭灰がカラマツ林の炭素循環に及ぼす影響」
- 2) ロシア科学アカデミー Kondratova Anzhelika
「アムール地域のカラマツ林における落葉分解の特性」
- 3) 東京大学 生産技術研究所 朴 慧美
「ロシア極東における植生の違いと森林火災発生」
- 4) 森林総合研究所 松浦陽次郎
「シベリアの永久凍土でのカラマツ林生態系の炭素貯留」
- 5) 沿海地方農業アカデミー Pokamestova Valentine
「南部沿海地方における植林地のLAI指数の決定」
- 6) 沿海地方農業アカデミー Loshakov Stanislav
「沿海地方の永久サンプルプロットにおける炭素放出の評価」
- 7) 沿海地方農業アカデミー Ivanov Aleksander
「農業アカデミー演習林における長期土壌呼吸観測結果」

第三部

14:30-19:00 エクスカーション

沿海地方 有機農業を行っているダーチャ（菜園を備えた別邸）



園主による出迎え



ダーチャ全景



地方料理によるもてなし。ダーチャで収穫されたものがふんだんに使われている

第三部

14:30-19:00 エクスカーション

沿海地方 有機農業を行っているダーチャ（菜園を備えた別邸）



火山による岩石を利用したボーダー、不織布を利用した温度管理の実践



寒さに強いカシス、地域に適した品目が選ばれている



地域の野生遺伝資源、ハスカップの栽培

カシス、ハスカップなどベリー類は、種類も多く沿海地方でも好まれる品目の一つである。別途視察したバビロフ研究所ウラジオストク支所にも多くの遺伝資源が収集されていた。